

2023年度

事業報告書

2023年4月1日から2024年3月31日まで

 学校法人 平安女学院

Heian Jogakuin (St. Agnes') School

目 次

I	「建学の精神」について	1
II	理事長からのメッセージ	1
III	法人の概要	2
	1. 設置する学校・学部・学科等	
	2. キャンパス所在地	
	3. 理事・監事・評議員	
	4. 学院長、学校長、学部長・学科長	
	5. 入学定員、学生数等の状況	
	6. 教職員の人数	
	7. 学院の沿革	
IV	事業の概要	7
	1. 法人	
	2. 大学・短期大学部	
	3. 中学校・高等学校	
	4. 大学附属こども園	
V	財務の概要	19
	1. 2023年度の決算内容	
	2. 財務状況の推移	
	3. 学校法人会計の概要と用語説明	
VI	第3次中期経営計画と実績	25
	1. 2023年度実績と中期経営計画および前年度との比較	
	2. 課題に対する成果	
	3. 新たな課題と対応	

I 「建学の精神」について

知性を広げ 望みを高くし 感受性を豊かにし そして神を知らせる

この言葉は、大阪の川口居留地で米国聖公会宣教師として活躍していたクインビー司祭が、1875（明治8）年3月20日付で本国へ書き送った手紙の中にあります。

この建学の精神は、本学院の教育の根底に流れています。キリスト教精神に基づいた教育理念であり、今日に至るまで受け継がれています。

II 理事長からのメッセージ

「2023年度 事業報告書」がまとまりましたので、ご報告申し上げます。

昨年度は、4月から新たな理事会体制が発足し、従前の体制下に生起していた様々な課題に対処してまいりました。一度に大きく変える、ドラスティックに改革する、というスタイルではありませんが、着実かつ穏当な仕方での組織の在り方や学院運営の仕組みを見直してまいりました。2025年度の私立学校法改正に合わせ、理事会や評議員会の在り方についても検討を加えています。

また、新しい理事会体制では、本学院が日本聖公会のもとにあるキリスト教主義の学校であることを見つめなおし、関西の聖公会関連学校との協力を進めました。2024年度より、聖公会関連学校の関係者から理事・評議員にご就任いただきました。

もちろん、学院はさまざまな課題を抱えています。特に大きな課題は、学院の経営状況の悪化です。2023年度決算は、事業活動収支計算書の経常収支差額が82,817千円の赤字となりました。その背景にあるのは、学生・生徒数の減少です。とりわけ大学の学生数がこの数年間で大きく減少し、それが学納金収入の減収に直結しました。2024年度は、大学全体の学生数が、収容定員の70%を割込むところまで来ており、経常収支差額はさらに大きな赤字を計上する見込みです。我々の学院をこれからも続けていくためには思い切った決断が必要となることも考慮しつつ、学生数を回復させるための方策をとっていく所存です。

このような状況下ではありますが、2025年度に本学院は創立150周年を迎えます。昨年度から副学院長を中心に150周年記念事業準備委員会を設置し、記念行事などの検討を続けてまいりました。近々、在校生・在学生のみならず卒業生・保護者・関係者の皆様にもお知らせできるものと存じます。学院としては、財政が厳しい中でありますから大規模な記念行事などは行えませんが、学院を担ってこられた先人や卒業生に感謝をささげ、学院の将来を展望できるようないくつかの事業を行いたいと考えています。

本学院の150年の歴史を鑑みると、この間、学院には多くの困難がありました。その都度困難を乗り越え教育の事業を続けてまいりました。そうした先人の努力に思いをいたし、次の10年、さらに50年に向けて、平安女学院が地域社会に必要とされ、神から託された教育の事業を続けていけるよう最善の努力を続けてまいりたいと存じます。

引き続き皆様のご支援を賜れますようお願い申し上げます。

学校法人 平安女学院
理事長 毛利 憲一

Ⅲ 法人の概要

1. 設置する学校・学部・学科等 (2023年5月1日現在)

(1) 平安女学院大学

国際観光学部 国際観光学科 (京都キャンパス)

子ども教育学部 子ども教育学科 (高槻キャンパス)

(2) 平安女学院高等学校 (全日制課程 普通科) (京都キャンパス)

(3) 平安女学院中学校 (京都キャンパス)

(4) 平安女学院大学附属こども園 (高槻キャンパス)

2. キャンパス所在地 (2023年5月1日現在)

京都キャンパス	京都府京都市上京区室町通樺木町上る武衛陣町221 代表電話 075-414-8155
高槻キャンパス	大阪府高槻市南平台五丁目81番1号 代表電話 072-693-2311

3. 理事・監事・評議員 (2023年5月1日現在)

〔理事〕 (7人)

区分	氏名	職	
理事長	毛利 憲一	大学副学長	
常務理事	栗田 康文	法人事務局長	2023. 9. 27 専務理事
常務理事	谷口 吉弘	大学学長	2024. 3. 31 辞任
常務理事	関根 秀治	元(社)茶道裏千家淡交会副理事長	
理事	荒川 雄次	国観光学部教授	
理事	高地 敬	日本聖公会京都教区主教	
理事	今井 千和世	中学校高等学校校長	2023. 5. 24 就任
(退任)			
理事	服部 和子	服部和子きもの学院長	2023. 5. 23 退任 (逝去)
※ (2024. 4. 1 就任) 理事	中辻 努		

〔監事〕 (2人)

区分	氏名	職	
監事	西山 伸一	元京都中央信用金庫常勤監事	
監事	竹中 芳晴	弁護士	2023. 6. 1 就任
(退任)			
監事	北峯 功三	弁護士	2023. 5. 23 辞任

〔評議員〕 (15人)

氏名	職	氏名	職
毛利 憲一	理事	栗田 康文	理事
谷口 吉弘	理事	関根 秀治	理事
荒川 雄次	理事	高地 敬	理事

今井 千和世	理事	松尾 光洋	子ども教育学部長
黒井 いく	国際観光学部長	井上 容子	附属こども園長
磯野眞紀子	子ども教育学部教授	藤井 康幸	学校法人職員
大岡 左代子	日本聖公会司祭	君島 茂	元子ども教育学部教授
戸田 貴子	大学後援会顧問		
(退任)			
栗田 康文	2024. 3. 31 辞任	谷口 吉弘	2024. 3. 31 辞任

※ (2024. 4. 1 就任) 桜井 和之、難波 一安

4. 学院長、学校長、学部長

(2023年5月1日現在)

〔学院長〕

高地 敬

〔平安女学院大学〕

学 長	谷口 吉弘 (2024. 3. 31 辞任、2024. 4. 1 就任 松尾 光洋)
副学長	毛利 憲一
国際観光学部長	黒井 いく
子ども教育学部長	松尾 光洋 (2024. 3. 31 退任、2024. 4. 1 就任 塩見 知利)

〔平安女学院中学校高等学校〕

校 長 今井 千和世

〔平安女学院大学附属こども園〕

園 長 井上 容子

5. 入学定員、学生数等の状況

(2023年5月1日現在)

(1) 平安女学院大学

(単位：人、%)

学 部	学 科	入学定員	収容定員※	在学学生数					収容定員充足率
				1年	2年	3年	4年	計	
国際観光学部	国際観光学科	100	450	40	52	87	142	321	71.3
子ども教育学部	子ども教育学科	80	290	55	49	72	54	230	79.3
総 計		180	740	95	101	159	196	551	74.5

※ 2023年度入学定員変更…国際観光学科 110人→100人、子ども教育学科 70人→80人
 2020年度入学定員変更…国際観光学科 90人→110人、子ども教育学科 90人→70人
 国際観光学部は編入学定員 20人を含む。

(2) 収容定員充足率

(毎年度5月1日現在)

	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
大学	78.2	87.3	90.3	84.7	74.5
短期大学部	72.5	70.0	57.5	—	—

※短期大学部は2020年度募集停止、2022年3月廃止

(3) 平安女学院高等学校

(単位：人)

入学定員	収容定員	在学学生数			
		1年	2年	3年	計
320	960	135	138	141	414

(4) 平安女学院中学校

(単位：人)

入学定員	収容定員	在学学生数			
		1年	2年	3年	計
160	480	49	48	90	187

(5) 平安女学院大学附属こども園

(単位：人)

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
定員	6	12	12	35	35	35	135
在園児数	5	12	12	34	35	35	133

※0・1・2歳児定員は3号のみ、3・4・5歳児定員は1号が各23名、2号が各12名

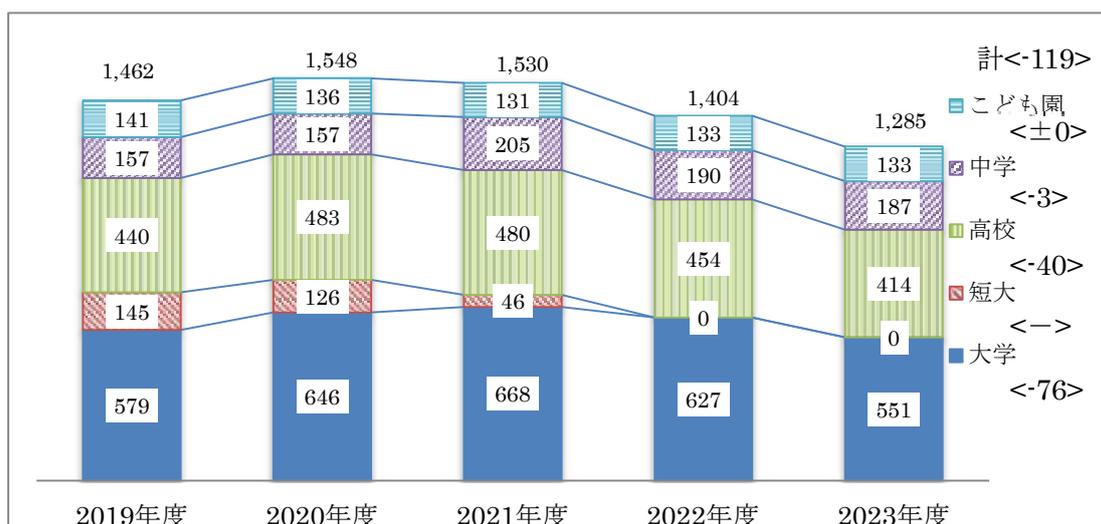
(6) 平安女学院 学生・生徒・園児総数・新入生総数

(単位：人)

		学生・生徒・園児数 () 内は「新入生数」			参考 2024年5月1日現在
		2022年5月1日現在	2023年5月1日現在	年間増減	
大学	国際観光学部	397(54)	321(40)	-76(-14)	278(78)
	子ども教育学部	230(51)	230(55)	±0(+4)	200(35)
	計	627(105)	551(95)	-76(-10)	478(113)
平安女学院高等学校		454(146)	414(132)	-40(-14)	442(174)
平安女学院中学校		190(48)	187(49)	-3(+1)	150(54)
大学附属こども園		133	133	±0	131
在学学生総数		1,404(299)	1,285(276)	-119(-23)	1,201(341)

(7) 平安女学院 学生・生徒・園児総数の推移

(単位：人)



※2019年度幼稚園から「幼保連携型認定こども園」に転換、2022年3月短期大学部廃止 <->増減

6. 教職員の人数

(2023年5月1日現在)

(1) 教 員

平安女学院大学 () 内は、特任教員内数 (単位：人)

区 分	専任(特任)					非常勤講師	合 計
	教授	准教授	講師	助教	計		
国際観光学部	13(6)	1(0)	1(0)	4(0)	19(6)	19	38
子ども教育学部	9(5)	4(1)	1(0)	6(3)	20(9)	33	53
大学計	22(11)	5(1)	2(0)	10(3)	39(15)	52	91

平安女学院高等学校 (単位：人)

区 分	専 任							非常勤講師	合 計
	校長	副校長	教頭	教諭	助教諭	常勤講師	計		
全 校	1	1	3	17	1	5	28	35	63

平安女学院中学校 (単位：人)

区 分	専 任							非常勤講師	合 計
	校長	副校長	教頭	教諭	助教諭	常勤講師	計		
全 校	0	0	0	8	0	3	11	5	16

※学校長は中学校・高等学校兼務

平安女学院大学附属こども園 (単位：人)

区 分	専 任				兼 務	合 計
	園長	教諭	嘱託	計		
全 園	1	13	3	17	25	42

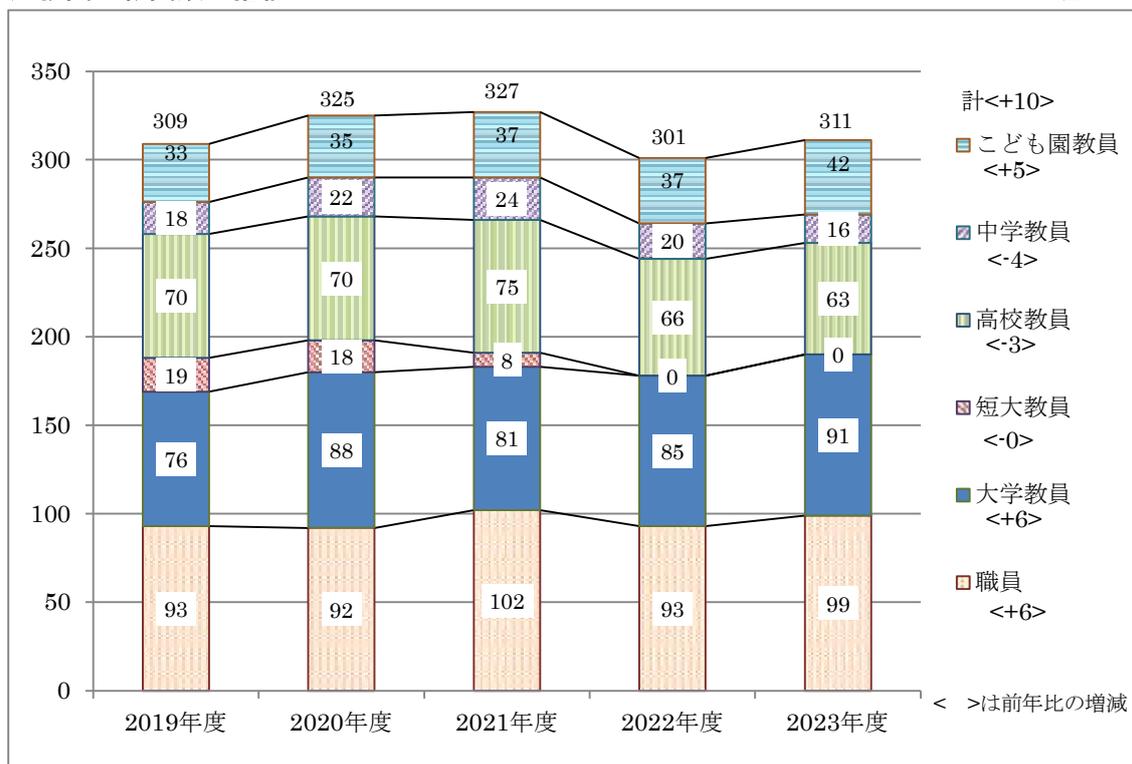
(2) 職 員

(単位：人)

区 分	法人	大学	中学高校	こども園	合 計
専任職員	8	17	6	1	32
嘱 託	10	16	10	0	36
契約職員	0	0	0	0	0
パートタイマー	1	25	4	1	31
計	19	58	20	2	99

(3) 教員・職員数の推移

(単位：人)



※2019年度に幼稚園から「幼保連携型認定こども園」に転換、2022年3月短期大学部廃止

7. 学院の沿革

- 1875年 9月 米国聖公会宣教師ミス・エレン・G・エディが、大阪の川口にあつた居留地内に「エディの学校」を設立、生徒3名
- 1880年 4月 学校名を聖書の言葉から「照暗女学校」(英語名St.Agne's School)と改称
- 1894年11月 学校名を「平安女学院」と改め、翌年4月の京都での開校を決定
- 1895年 6月 新校舎(現「明治館」)が落成
- 〃 9月 始業式。9月に新生徒12名が加わり、生徒20名
- 1915年 4月 「聖三一幼稚園」を開設
- 1947年 4月 新たな六三制教育制度のスタートに合わせ、「平安女学院中学校」を設置
- 1948年 4月 「平安女学院高等学校」を設置
- 1950年 4月 「平安女学院短期大学」を開学
- 1966年 4月 聖三一幼稚園を「平安女学院幼稚園」に改称
- 1987年 4月 短期大学、幼稚園を大阪府高槻市南平台に新設した高槻キャンパスに移転
- 2000年 4月 創立125周年を機に「平安女学院大学」を滋賀県守山市にて開学
- 2002年 4月 短期大学を「平安女学院大学短期大学部」に改称
- 2005年 4月 高槻キャンパスにびわ湖守山キャンパスを統合
- 2007年 4月 研究環境を考慮し、「国際観光学部」を京都キャンパスに開設
- 〃 幼稚園を大学の附属とし、「平安女学院大学附属幼稚園」に改称
- 2008年 8月 旧京都地方裁判所所長官舎(2,148㎡)を大学施設として取得(現「有栖館」)
- 2009年 4月 大学「生活福祉学部」の募集を停止し、新たに「子ども学部」を開設
- 2014年 4月 高等学校に「幼児教育進学コース」開設
- 2015年 4月 大学「子ども学部」を「子ども教育学部」に名称変更
- 2019年 3月 「平安女学院大学附属幼稚園」を廃止
- 2019年 4月 「平安女学院大学附属こども園」を開設
- 2021年 4月 短期大学部保育科の募集を停止
- 2022年 3月 「平安女学院大学短期大学部」を廃止

IV 事業の概要

1. 法人

(1) 寄附金募集事業…

《2023年度 寄附金(募金)額と前年比》

(単位：件、円)

	寄付内訳	2023年度寄付金累計		前年度対比	
		件数	金額	件数	前年度比
一般寄付金収入	学院振興寄付(一般)	2	10,010,000	0	9,870,000
	教育研究強化事業	43	2,123,000	0	-286,000
特別寄付金収入	明治館・有栖館見学者寄付	3	479,500	0	255,400
	奨学金のため	79	237,000	-46	-138,000
	中高教育設備支援寄付	50	1,890,000	-15	-663,000
	その他特別寄付金収入	4	3,450,298	-2	-528,593
合 計		181	18,189,798	-63	8,509,807
現 物 寄 付		5	1,439,731	-5	-1,005,112

(2) 学債の発行

ア. 学債の発行・残高状況

(単位：件、千円)

	件数	金額
2023年3月末学債残高	222	705,600
2023年度の学債発行	53	178,200
2023年度の学債償還	98	313,400
期末学債残高(2024年3月末)	177	570,400

※2024年度の学債償還 11件 41,900千円
 2025年度 〃 25件 87,400千円
 2026年度 〃 69件 228,200千円
 2027年度 〃 7件 11,000千円
 2028年度 〃 30件 81,500千円
 2029年度 〃 35件 120,400千円

エ. 期末残高・件数

(単位：件、千円)

	件数	金額
2013年度末	2	15,200
2014年度末	189	580,300
2015年度末	198	603,900
2016年度末	281	820,900
2017年度末	296	879,100
2018年度末	303	917,400
2019年度末	295	927,500
2020年度末	261	834,000
2021年度末	260	828,400
2022年度末	222	705,600
2023年度末	177	570,400

⇒2024年度に期日到来する学債は、継続の場合でも期間3年かつ期日には償還のみの取扱いとし、今後は、每期同様の扱いとすることで、2029年度に学債残高をゼロとする予定です。

イ. 期末(2024年3月末)における学債申込者内訳

(単位：件、千円)

	件数	残高金額
理事・評議員・教職員等	13	23,300
大学在校生・保護者・保護者親戚	67	271,100
卒業生・校友会等	97	276,000
合計	177	570,400

ウ. 募集金利

(単位：%)

	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	2024年度
3年物	0.60	0.40	0.40	0.15	0.15	0.15	0.20	0.40
6年物	1.00	0.60	0.80	0.30	0.30	0.30	0.40	-

2. 大学

(2) 主な教育活動

ア. 大学 国際観光学部

(ア) 教育のポイント

2023年4月は、まだ少し感染症に気を配りながらも新入生向けの宿泊オリエンテーションを再開しました。授業が始まる前に友達を作るというのが一番の目的ですが、新入生はクラスメートと連絡先を交換し、なごやかな雰囲気履修ガイダンスなどに参加していました。

また、新型コロナウイルス感染症の5類移行を受け、コロナ禍以前のように、ほとんどの授業を対面で実施するようになりました。海外留学や遠方への国内フィールドワークの他、海外フィールドワークも復活させました。また、引き続き修学旅行ガイドなど「京都」という土地柄を活かした学びを展開しました。

なお、「観光・京都学コース」「外国語特修コース」「ホスピタリティ・ビジネスコース」それぞれのコースの特性を生かすため、初めてコース別活動日を設定し、それぞれの学びを深めました。「韓国現代プログラム」を選択している学生達は、釜山外国語大学の大学生とZoomを使ってランゲージエクステンションを始め、韓国語のスキルアップに励みました。

また、釜山外国語大学の学生8名と教員2名が7月に本学に10日間の夏季研修のために来学された際には、対面で交流を図ることができました。

(イ) 主な教育活動内容

a. 海外留学

2023年2月下旬～4月上旬にかけて、アメリカに3名・カナダに2名・オーストラリアに1名の学生が語学留学に出発し、2023年12月全員が無事に帰国しました。カナダに留学していた学生もアメリカへ行って観光をするなど意欲が窺われます。

2024年3月には、2023年度生がアメリカ(3名)、オーストラリア(1名)に留学し、語学学習に取り組んでいます。カナダの大学付属語学学校に出願後、カナダ政府がビザの申込方法を変更したため、急遽、留学先をアメリカに変更した学生もおりましたが、希望者全員が留学生生活を始めることができました。

b. 国内フィールドワーク

今回は、2回に分けて関東・中部方面と四国・近畿方面を訪れ、世界遺産や温泉などのある日本の重要な観光地を調査して理解を深めました。

・関東・中部方面(箱根、富士河口湖、富岡、日光、東京)

8月25日(金)～8月28日(月)、学生24名、教員2名

・四国・近畿方面(松山、琴平、姫路)

9月7日(木)～9月9日(土)、学生23名、教員2名

c. 修学旅行ガイドほか

5、6、9月に中学校5校の修学旅行ガイドを2・3・4年生が担いました。また京都市・大学コンソーシアム京都・JTBで展開する「B&Sプログラム」には、延べ20名の学生が参加しました。

また、NPO法人都草・四条大船鉾保存会と連携し、7月3日(月)に、「ちまき作り(17名)」と後祭り宵山期間(7月21日(金)～23日(日))での「ちまき授与(約38名)」に参加、協定校である大阪高校の生徒も浴衣がけで見学に訪れました。

・テキスト(教科書)及び卒論等資料の購入補助…一人あたり2,500円

・エディ・カフェ食券セット配布…一人あたり1,300円

・その他、抗原検査キット購入、学生交流イベントに支出しました。

イ. 大学 子ども教育学部

(ア) 教育のポイント

子ども教育学部子ども教育学科には子どもの成長と学びをサポートする人材育成のために3つのコースがあります。「子ども保育コース」では主として保育士・幼稚園教諭を目指し、「子ども教育コース」では主として小学校教諭を、「子ども心理コース」では公認心理師(受験資格)または認定心理士を目指すことができます。「子ども教育コース」には小学校での英語教育に対応できるように中学校教諭免許(英語)を取得できる「英語専修」を併設しています。またそれぞれのコースで副専攻として他のコースの免許資格を取得することもでき、最大3つの免許資格を取得することができます。

(イ) 主な教育活動内容

- a. コロナ感染症が2023年5月から5類に移行する見通しのもと、4月からの授業はほぼ平常時と同様に対面授業を行いました。ただし教員がコロナ陽性等で自宅待機の場合は遠隔授業も併用しました。各種実習もコロナ禍以前の状況に戻り、例年の予定通りに実施できました。1年次生・2年次生の体験実習も通常通りに実施することができました。

実習種別	学年	実習期間
教育実習 a (幼稚園)	4年	6月5日～6月30日
教育実習 b (小学校)	3年	8月28日～9月25日 (一部延期あり)
教育実習 c (中学校)	4年	5月22日～7月18日 (期間内の15日間)
保育実習 I b (保育所)	3・4年	9月4日～9月15日
保育実習 II	3・4年	11月6日～11月17日
保育実習 I a (施設)	2・3年	2024年2月12日～3月29日 (期間内の10～11日間)
体験実習 a I	1年	10月24日～12月12日 週1回 計8回
体験実習 a II	2年	8月28日～9月1日 9月4日～9月8日 (幼稚園のみ)

- b. 「教職実践演習」では、本格的に再開した高槻キャンパスでの平女祭(10月28日(土))において、地域の親子向けのコーナーを担当しました。乳児向け、3、4歳児向け、4、5歳児向け、英語版のプログラムとして、絵本の読み聞かせや手遊び、制作、ダンスなどの活動を考え、会場の教室は壁面構成で飾りました。約100組の親子連れが参加して、保護者の方へのアンケート結果は大変好評で、親子ともに楽しんでもらうことができました。
- c. 学生のスキルアップのための課外授業として「アグネス講座」を開催しました。秋学期から春休み期間にかけて、保育士・幼稚園教諭向けに「手遊び」など3講座、小学校教諭向けに「魅力的な板書」「算数が好きになるネタ」「紙パズル」など9講座、心理師向けに「発達検査の読み方」など4講座、その他「ジェンダーについて」など2講座、合計18講座を開講しました。
- d. 小学校教員・公立保育職の採用試験対策として「アグネス塾」を、後援会の助成金を得て開催しました。教師として求められる資質や実践的な指導力を育成する場となっています。7・8・10月の3期に分けた東京アカデミー講師による全11回の筆答対策(数的推理・判断推理・国語・数学・理科・英語)、5月から最終2月までに面接や場面指導、模擬授業対策など全200回の講座を開講しました。

(2) 地域連携、産官学連携、国際交流

ア. 高槻市地域子育て支援拠点事業ひろば型「どんぐりの森」(2023年度)

(単位：日、人)

月	開館日数	利用者(子供)	月	開館日数	利用者(子供)
4	20	140	10	21	203
5	20	142	11	20	195
6	22	157	12	20	199
7	20	207	1	19	219
8	21	205	2	17	232
9	20	233	3	20	223

イ. 京都モダン建築祭

11月11日(土)～12日(日)、京都に現存する魅力的なモダン建築を一斉に公開するプロジェクト「京都モダン建築祭」に参加しました。明治館、有栖館を公開、3年生の有志メンバーが中心となり準備とガイドツアーなど当日の運営を担いました。

ウ. 大学祭

(ア) 京都キャンパス

10月21日(土)に行った大学祭では、地域連携をしている市や団体、京都府警もブースを出展していただきました。学生の模擬店の出店も多く、新たな試みができ大学祭となりました。

(イ) 高槻キャンパス

10月28日(土)に行った大学祭では、近隣高校のクラブがダンスや和太鼓の演奏を披露してくれました。高大連携という意味で有意義な試みとなりました。

エ. クリスマスカンタータ

高槻キャンパスでは12月2日(土)にクリスマスカンタータを昨年度に続きチャペルで開催しました。本年度から、コロナ禍で中止していた一般公開を再開し、学生の家族や近隣の方が観賞しました。

オ. イルミネーション

(ア) 京都キャンパス

テーマは「花鳥風月」、11月24日(金)に点灯式を行いました。

京都市、三菱自動車工業株式会社、三菱自動車販売株式会社の協力を得て、12月14日(木)～16日(土)の3日間は太陽光でつくった再エネ100%の電気だけでイルミネーションを灯しました。また、今年度は親子連れが黒谷和紙の材料となる楮の穂先および、和紙の端紙を利用したミニクリスマスツリーを手作りするワークショップを開催し、完成したツリーを再エネの電気ですライトアップする環境教育イベントを行いました。

(イ) 高槻キャンパス

11月27日(月)にイルミネーションの点灯式を行いました。

「Episode ー光と紡ぐ希望のひかりー」をテーマとし、キャンパス内に様々な物語をモチーフにしたオブジェなどで、キャンパスのメインストリートとバス停付近を彩りました。12月25日(月)までの点灯期間中に近隣住民など500名を超える来場者がありました。

カ. 地域連携

(ア) 地域連携の具体的な取り組みとして、8月5日(土)・6日(日)に開催された高槻まつりでは、ボランティア部を中心に総勢20名の学生ボランティアの参加し、祭りの運営サポートやビレッジブースでの子ども向けブース(千本つりやくじ引き)を運営しました。

また、10月9日(月・祝)の高槻市市民スポーツ祭においても、学生ボランティアが参加し、赤ちゃん広場、子どもを対象としたキッズダンス教室などを運営、多くの市民の方々や子どもたちに喜んでもらえる取り組みを実践しました。その他、毎月地域自治会や公民館の主催事業(夏まつりや地域のイベント)においても、主に地域の子どもたちを対象にした取り組みを、年間を通して行ってきました。

(イ) 奈良県五條市との地域連携協定

2022年に締結した本学と奈良県五條市の地域連携協定に基づき、2023年度は、10月17日(火)に産業環境部農林政策課柿振興室より2名が来校して国際観光学部で授業を行い、10月21日(土)の京都キャンパス大学祭および10月28日(土)の高槻キャンパス大学祭で、五條市の柿の紹介・販売ブース(販売は京都のみ)を設けました。

また、8月10日(木)、11日(金)、および9月30日(土)、10月1日(日)には、五條市が行う東京にある奈良県の物産を扱う奈良まほろば館でのイベントに学生が参加し、柿のPR活動を行いました。

(ウ) 11月24日(金)にプロバスケットボールチーム「京都ハンナリーズ」を運営するスポーツコミュニケーションKYOTO株式会社と包括連携協定の締結式を行いました。

(3) 就職支援・卒業後の状況(就職・進学)

ア. 2023年度進路実績

(単位:人、%)

学科	卒業者数 (a) ※	就職 希望者数 (b)	就職者数 (c)	未内定数 (b)-(c)	就職率 (c)/(a)
国際観光学部	132	125	124	1	93.9
子ども教育学部	51	49	49	0	96.1
大学合計	183	174	173	1	94.5

※卒業者数には、留年卒業・春学期卒業生を含む(国際観光学部9人、子ども教育学部2人)

イ. 就職状況

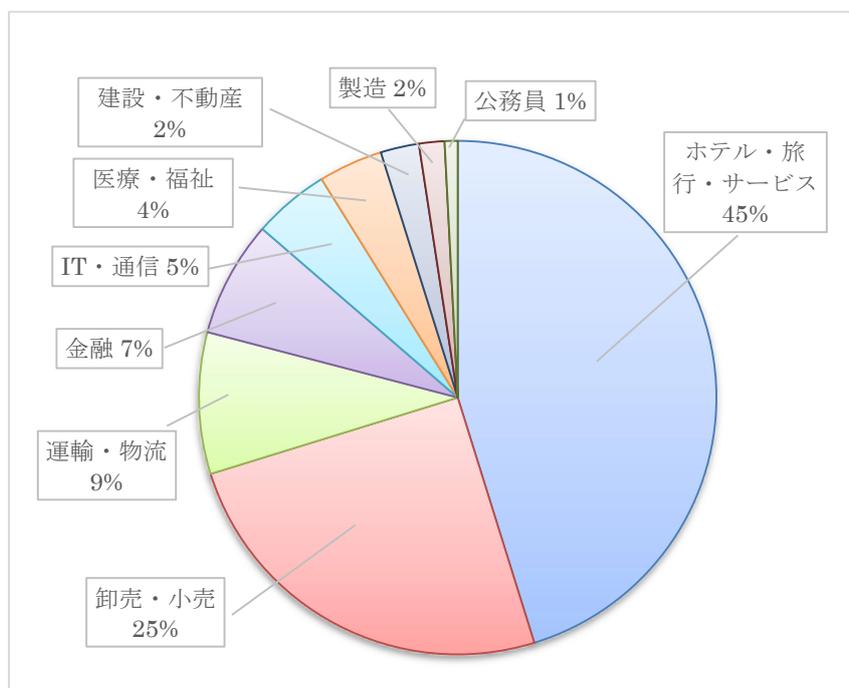
本学では、教員・職員が各学生の進路希望や適性を個別に把握し、多様な学生に適した支援を提供するために、全学的な支援体制を整えています。

また、各学部・学科の特性に合わせた進路ガイダンスや就職講座、試験対策講座など、多彩なプログラムを提供しています。アフターコロナで企業の採用意欲が全般的に回復したことで、就職活動の一層の早期化への対応と、長期化する活動に対しても適切な進路が見つけられるよう、個別支援や情報提供に力を入れました。また、多様な選考方式に合わせた就職支援も充実させています。

(ア) 国際観光学部

観光・サービス業界の人材需要の拡大から学生のホテルや空港サービスへの志望意欲が回復し、多くの就職決定となりました。他にも、卸売・小売、運輸、国際物流、金融などの多岐に亘る業界の優良企業に数多く就職を決定しました。

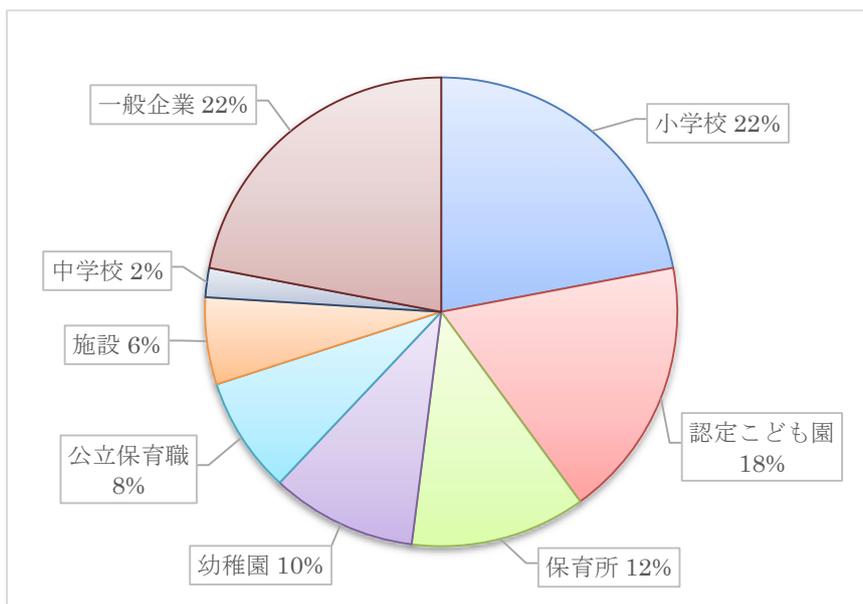
・業界別進路割合



(イ) 子ども教育学部

小学校採用試験合格数は8名で、大阪府2名、大阪市2名、滋賀県2名、長崎県1名、川崎市1名です。また、大阪市小学校講師が2名、佐賀県中学校講師が1名です。公立保育職は、茨木市1名、豊中市1名、大津市1名、精華町1名の合計4名で、他に私立保育職、施設(介護職)、企業に就職決定しました。

・業界別進路割合



(4) 現状の課題と今後の取り組み

本学では、2020年度より入学者数の減少が続いています。2024年度入試に向けては、従来の募集広報活動に加え、通常授業を見学する形式でのオープンキャンパスの開催、通信制高校への訪問活動の強化、外国人留学生の受入れなどに取り組みました。その結果、入学者数(1年次生)は前年度の90名を上回る113名に増加しましたが、入学定員160名の充足には至りませんでした。2025年度入試に向けては、学生確保を本学の最重要課題として取り組んでいます。

(5) 資料編

ア. 卒業者数 (2024年3月31日現在)

(単位：人、%)

学科	2020年度 入学者数	卒業者		留年者		中途退学者	
		人数	構成比	人数	構成比	人数	構成比
国際観光学科	140	123	87.9	4	2.9	13	9.3
子ども教育学科	55	49	89.1	2	3.6	4	7.3
大学計	195	172	88.2	6	3.1	17	8.7

※国際観光学科の2020年度入学者には2022年4月の編入学者30名を含む。

※子ども教育学科の2020年度入学者には2022年4月の編入学者1名を含む。

イ. 免許・資格等取得者数 (2024年3月31日現在)

子ども教育学部子ども教育学科

(単位：人)

幼稚園教諭一種免許状	小学校教諭一種免許状	中学校教諭一種免許状	保育士資格
37	27	7	32

ウ. 授業料・入学金等 (2023年4月1日現在)

入学金	(入学時のみ)	250,000円
授業料	(年額)	980,000円
教育充実費	(1年次年額)	170,000円
	(2年次以降年額)	280,000円
入学検定料		30,000円
	センター試験利用型	5,000円
休学在籍料	(1年休学)	60,000円
	(半年休学)	30,000円

3. 中学校・高等学校

(1) 中高の現況と概要

生徒減少期に向け「誰一人取り残さない学校教育」を打ち立てるために、全日制普通科単位制コースを開設すること、生徒の健康を推進するための希望制給食制度の確立、学校づくりを生徒・保護者・教職員が推進する三者協議会の発展、選択制通学服導入に向けての全学討議、新しい英語教育のためのシステム導入計画などを進めるとともに、スクールミッション・スクールポリシーの明文化など、平安女学院教育の充実発展の改革を推進しています。

取り分け、新設するコースへの関心や、希望制給食については、新しい取り組みとして注目を浴び、報道もされ、期待されています。

(2) 主な教育活動

ア. 主な行事

(ア) 体育祭 2023年6月9日(金)

中学校、高等学校別々で開催し、500名を超える保護者の来場がありました

(イ) 文化祭 9月22日(金)～23日(土)

中学・高校生徒会が企画、運営し開催しました。

SDG'sを意識し、クラスのステージ発表、クラブ、有志の展示、発表、保護者会の企画等を行いました。

オープンスクールも同時に開催し、1,300名を超える来場者がありました。

(ウ) 人権学習会 10月19日(木)

平和について考える機会として、広島女学院の取り組みを学びました。

(エ) 収穫感謝礼拝 11月16日(木)

神の恵みによって、いのちが与えられ、今食べることができ、生かされていることに感謝しました。

また、学校内外に食品提供を呼びかけ、大量の食品を子ども食堂やホームレス支援団体に寄付することができました。

(オ) 第90回クリスマス・カンタータ 12月15日(金)

今年度は高校3年生の有志が主体となって運営し、一般の方にも公開しました。

イ. 修学旅行・研修旅行

(ア) 中学3年研修旅行 10月24日(火)～27日(金)

長崎、熊本に行き、現地での体験や見聞を通して、平和、防災、人権について学びました。

(イ) 高校2年修学旅行 10月30日(月)～11月3日(金)

北海道、四国に行き(選択制)、旅行を通して、平和、人権、防災、自然について考える機会を持ちました。

ウ. 希望制給食の開始

食育を意識し、中高生の栄養バランスを考慮した献立を提供する希望制給食を、9月より

開始しました。他に例を見ない取り組みで、開始時は新聞報道もありました。毎月多くの生徒が利用しています。

エ. 姉妹校交流・学校間交流

コロナ禍で行えなかった交流を再開しました。8月にタイの姉妹校チェンマイクリスチャンスクールへ生徒28名が行き、ホームステイを含め、現地の生徒と交流を深めました。

オ. ジュニア教室（英語・新体操）、地域連携活動

引き続き小学生対象のジュニア教室を開催しました。当該教室受講者のうち2023年度中学校進学者は3人（英語1人、体操2人）でした。

地域連携活動では、夏祭りなどの地域行事や市町村の取り組み、児童館のイベントなどに生徒が参加し、地域の皆さんと交流しました。

カ. その他

(ア) チーム学校の充実発展のため、法律事務所と契約し、スクールロイヤーを配置しました。学校にかかる様々な問題について法的サポートを受ける体制を確立しました。

(イ) 韓国江原道で行われたユースオリンピック、女子スノーボード・ハーフパイプで、中学2年生 清水さらさんが、銀メダルを獲得する快挙を成し遂げました。

(ウ) 多様な形態の学びの場を提供する必要性と、新たな学びの在り方を世に示す先駆けとし、従来の学校制度への改革へつなげるため、2024年度より高等学校に全日制普通科単位制「ミルトスコース」を開設することを決定しました。

(3) 進路について

ア. 立命館進学コースの68人が立命館大学・立命館アジア太平洋大学へ進学しました。

イ. 平安女学院大学への進学者は13人でした。（国際観光学部2人、子ども教育学部11人）

(4) 現状の課題・これからの取り組み

教科教育の充実発展のために全教科において「新しい学び」の実践を推進し、生徒の学びへの喜びを充足させること、スクールポリシーに則り、未来社会が求めている学びにふさわしい教育課程の改編を行う事が教科教育の充実発展に不可欠です。

新コース「ミルトス」については、設置趣旨を踏まえた教育内容を遂行し、次年度募集の拡大に繋げること、なお、定員未充足コース、とりわけ幼児教育進学コースについてはコース企画の充実を図り定員確保に努めます。

(5) 資料編

ア. 卒業生数 (2024年3月31日)

高等学校コース	3年	
	クラス数	人数
アグネス国際進学	2	47
エキスパート特進		8
立命館進学	2	71
幼児教育進学	1	14
合 計	5	140

中学校コース	3年	
	クラス数	人数
グローバル・ステップ	3	30
立命館・ステップ		60
合 計	3	90

イ. 卒業生の進路一覧 (2024年3月31日現在)

高等学校 進 路	コース				計	
	アグ ネス	E S	立命館	幼児 教育		
進 学	大 学	36	8	71	11	126
	短期大学	0	0	0	2	2
	専門学校	10	0	0	0	10
就 職	0	0	0	0	0	0
そ の 他	1	0	0	1	2	2
合 計	47	8	71	14	140	140

中 学 校 進 路	人数
進学 平安女学院高校	88
他 高校	2
その他	0
合 計	90

ウ. 生徒納付金 (2023年4月1日現在)

種別	中学校	高等学校	備考
入 学 金	100,000 円	100,000 円	入学時
施 設 費	20,000 円	20,000 円	
授 業 料	580,000 円	580,000 円	1～3年次年額
教育充実費	175,000 円	175,000 円	

4. 大学附属こども園

(1) 現状と概要

ア. 定員と実員

2024年3月末現在、()内は定員(単位:人)

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
1号認定	—	—	—	23 (23)	22 (23)	23 (23)	68 (69)
2号認定	—	—	—	12 (12)	12 (12)	12 (12)	36 (36)
3号認定	6 (6)	12 (12)	12 (12)	—	—	—	30 (30)
合計	6 (6)	12 (12)	12 (12)	35 (35)	34 (35)	35 (35)	134 (135)

イ. 保育・教育時間

	1号認定	2号認定	3号認定
開園時間	7:30~19:00		
教育時間	月・火・木・金	9:00~13:30	—
	水	9:00~11:30	—
保育標準時間 (11時間利用)	—	7:30~18:30 ※18:30以降は延長保育利用	
保育短時間 (8時間利用)	—	8:00~16:00 8:30~16:30 9:00~17:00 ※選択時間以外は延長保育利用	
休日	土・日・祝・長期休業日 (春・夏・冬休み) 年末年始		日・祝・年末年始

ウ. 保育・教育内容

幼保連携型認定こども園教育・保育要領に則り、本学の建学の精神であるキリスト教を基本として、乳幼児の健やかな成長を願い、遊びと生活を通して、乳幼児期にふさわしい体験が豊富にできるように、教育・保育を行っています。

エ. 行事

- (ア) 入園式…2023年4月1日(土)にこども園リズム室にて入園式を行いました。
- (イ) 誕生日会…乳児は月毎に、幼児は3か月に一度実施し、お祝いしました。
- (ウ) 花の日礼拝…6月14日(水)に園児の持ち寄った花をリズム室に飾り、礼拝をしました。
- (エ) デイキャンプ…7月21日(金)に5歳児が園内で行ないました。
- (オ) 運動会…10月14日(土)に大学グラウンドで、全園児が集い運動会を行いました。
- (カ) 収穫感謝礼拝…10月25日(水)に持ち寄った果物や野菜を捧げ、神様のお恵みに感謝し礼拝をしました。翌日には5歳児がその野菜を調理して豚汁を作り、皆でいただきました。
- (キ) クリスマス礼拝…12月16日(土)5歳児がペーजेントを、18日(月)にはサンタクロースを招いて祝会、同日夕方に燭火礼拝及びキャロリングを行いました。
- (ク) 卒園式…2024年3月16日(土)に、こども園リズム室にて卒園式を行いました。

オ. 給食…業務委託した業者が園内厨房で調理した給食を摂っています。

カ. 新型コロナウイルス感染症対策

5類移行後、教職員及び園児の体調管理は各自で行っています。他の感染症と同じ扱いとし、園内で感染がわかった場合には、クラス(教職員の場合は教職員と明記)・感染者数を園内掲示板にて保護者・教職員に知らせ、感染拡大防止を図っています。また、園内数か所にCO2モニターを設置し、換気状況の確認を継続しています。

(2) 地域交流と子育て支援

- ア. 高槻アート博覧会…高槻アート博覧会巨大絵画アーケード展に「未来へまいあがれ!!」というタイトルで出展しました。
- イ. 未就園児親子登園クラス(てんしぐみ)…5組ずつの親子(計15組)が隔週水・金曜日に登園しました。(料金:入会金3,000円、会費1回500円)
- ウ. 高槻市立阿武野中学校より依頼を受け、2年生の生徒3名が5歳児を対象に総合学習の調査を行いました。
- エ. 北あぶの文化展…2024年3月3日(日)阿武野コミュニティセンターにて行われた文化展に、巨大絵画を出展しました。

(3) 大学・高校との交流

子ども教育学科より実習及びインターンシップ、平安女学院高校幼児教育コースより実習生を受け入れました。また、大学生の卒論調査依頼を受け、協力しました。

(4) 園外保育

遠足…2023年5月18日(木)に萩谷総合公園へ、11月21日(火)に服部緑地公園へ出かけました。

(5) 預かり保育…2023年度は、年間延べ2,308人が利用しました。

(6) 今後の課題・これから取り組む事業の概要

子どもたちや保護者が安心できる場所となるよう、保育者の配置及び環境整備の検討を継続して進めていきます。乳児の遊び場拡充のため、乳児保育室外側の整備を行います。

(7) 資料編

ア. 保育料

入園事務手数料	25,000円(1号・2号)
入園検定料	7,000円(1号)
保育料(月額)	高槻市の定める保育料(1号・2号は無償)
特定保育料(月額)	5,000円(1号・2号)

イ. 給食費

認定区分	主食費	副食費	備考
1号認定子ども	1,760円/月	4,000円/月	8月含む
2号認定子ども	2,000円/月	4,500円/月	—
3号認定子ども	—	—	保育料に含む

ウ. 預かり保育料

1時間300円、月極利用17,000円(8月のみ22,000円)

エ. 保護者への補助金

保育料は、1号・2号無償、3号は住民税非課税世帯のみ無償です。また、年収360万円未満相当世帯・小学3年生までの第3子以降の子については、副食費が免除されます。なお、新2号認定を受けた場合は、預かり保育料1日450円(最大11,300円)まで無償です。

V 財務の概要

1. 2023 年度の決算内容

(1) 「事業活動収支計算書」(表1) …企業会計では「損益計算書」に該当します。

ア. 教育活動収支差額…△71 百万円の赤字です。

(ア) 教育活動収入は 1,889 百万円で前期比△155 百万円減少しました。

a. 教育活動収入の 62%を占める「学生生徒等納付金」は、1,162 百万円(前期比△133 百万円)となりました。これは学生生徒数が 1,285 人(前期比△119 人)となったためです。

b. 教育活動収入の 32%を占める「経常費等補助金」は、596 百万円(前期比△7 百万円)となりました。これは、国庫補助金で前期比△18 百万円減少したものの、こども園に対する補助金が 9 百万円増加となった為、前期比△7 百万円の減少となったものです。なお、国庫補助金には、修学支援「授業料等減免費交付金」の補助金が 56 百万円含まれています。

(イ) 教育活動支出は、1,960 百万円で前期比 17 百万円増加しました。

a. 人件費は 1,119 百万円で前期比 36 百万円の増加となりました。

退職金を除く、教職員の人件費が 1,049 百万円と前期比 31 百万円増加したことが影響しています。

b. 教育研究費は、632 百万円で前期比△12 百万円の減少となりました。

報酬・委託・手数料が 15 百万円増加しましたが、奨学費が△29 百万円、光熱水費が△11 百万円減少致しました。

イ. 教育活動外収支差額…△12 百万円の赤字(前期比 3 百万円改善)です。

「借入金等利息」は、金融機関借入金利息と学校債利息です。

ウ. 経常収支差額…経常的な収支状況を表し、△83 百万円の赤字です。

教育活動収支差額と教育活動外収支差額を合算した額で、学校法人の運営状況を示す基本指標となります。

エ. 特別収支差額…臨時的な収支状況を表し、△41 百万円の赤字です。

20 年余り放置されていた京丹後市のセミナーハウスを処分した為、資産除却損 40 百万円、資産処分差額 6 百万円を計上しています。

オ. 基本金組入前当年度収支差額…△124 百万円(前期比△245 百万円の減少)の赤字です。

カ. 基本金組入額…本年度の組入額合計は 86 百万円(前期比△131 百万円の減少)です。

取得した固定資産 217 百万円を「第 1 号基本金」に組み入れました。

(2) 「資金収支計算書」(表 2) …企業会計では「キャッシュフロー計算書」に該当します。

ア. 収入の部…2,172 百万円の収入でした。「学生生徒納付金収入」1,162 百万円、「補助金収入」596 百万円で、全体収入の 81%を占めています。

イ. 支出の部…2,571 百万円の支出でした。借入金返済支出は 579 百万円です。借入金等収入が 178 百万円でしたから、有利子負債は差引で△401 百万円減少しました。

「事業活動収支計算書」(表1) 2023年4月1日から2024年3月31日まで

(単位:千円)

	科 目	2023年度	2023年度	予算との差異	2022年度	2022年度との差異	
		予算	決算		決算		
		①	②	①-②	③	②-③	
教育活動収支	収入の部	学生生徒等納付金	1,161,776	1,161,693	83	1,295,140	△ 133,447
		手数料	10,530	12,067	△ 1,537	10,912	1,155
		寄付金	18,450	18,400	50	10,213	8,187
		経常費等補助金	574,800	595,683	△ 20,883	603,133	△ 7,450
		国庫補助金	135,000	116,948	18,052	134,684	△ 17,736
		地方公共団体補助金	304,000	329,220	△ 25,220	326,550	2,670
		施設型給付費	135,800	149,515	△ 13,715	141,899	8,636
		付随事業収入	21,900	22,424	△ 524	22,131	293
	支出の部	雑収入	56,916	79,001	△ 22,085	102,670	△ 23,669
		教育活動収入計	1,844,372	1,889,268	△ 44,896	2,044,200	△ 154,932
		人件費	1,078,490	1,119,448	△ 40,958	1,082,906	36,542
		教員人件費	657,909	657,328	581	647,719	9,609
		職員人件費	367,071	392,047	△ 24,976	370,989	21,059
		役員報酬	5,510	5,815	△ 305	360	5,455
		退職給与引当金	0	0	0	0	0
退職金	48,000	64,258	△ 16,258	63,839	419		
教育研究経費	631,956	631,987	△ 31	643,752	△ 11,764		
(うち、減価償却額)	(204,450)	(198,328)	(6,122)	(190,616)	(7,712)		
管理経費	202,170	208,810	△ 6,640	216,304	△ 7,494		
(うち、減価償却額)	(20,670)	(21,132)	(△ 462)	(24,319)	(△ 3,187)		
徴収不能額等	100	0	100	36	△ 36		
教育活動支出計	1,912,716	1,960,245	△ 47,529	1,942,998	17,247		
教育活動収支差額	△ 68,344	△ 70,977	2,633	101,202	△ 172,179		
教育活動外収支	収入の部	受取利息・配当金収入	133	73	60	75	△ 2
		その他の教育活動外収入	0	0	0	0	0
		教育活動外収入計	133	73	60	75	△ 2
	支出の部	借入金等利息	12,112	11,913	199	14,937	△ 3,024
		その他の教育活動外支出	0	0	0	0	0
教育活動外支出計	12,112	11,913	199	14,937	△ 3,024		
教育活動外収支差額	△ 11,979	△ 11,840	△ 139	△ 14,863	3,022		
経常収支差額 (A)	△ 80,323	△ 82,817	2,494	86,339	△ 169,157		
特別収支	収入の部	資産売却差額	0	0	0	0	0
		その他の特別収入	888	5,684	△ 4,796	39,195	△ 33,512
		現物寄付	888	1,229	△ 341	1,911	△ 682
		施設設備補助金	0	0	0	0	0
		過年度修正額	0	4,455	△ 4,455	37,284	△ 32,829
	特別収入計	888	5,684	△ 4,796	39,195	△ 33,512	
	支出の部	資産処分差額	43,970	46,949	△ 2,979	4,193	42,756
		資産除却損	36,779	40,758	△ 3,979	4,193	36,565
		施設処分差額	7,191	6,191	1,000	0	-
		その他の特別支出	0	0	0	4	△ 4
過年度修正額		0	0	0	4	△ 4	
特別支出計	43,970	46,949	△ 2,979	4,197	42,752		
特別収支差額 (B)	△ 43,082	△ 41,266	△ 1,816	34,998	△ 76,263		
【予備費】	(C)	0	0	0	0		
基本金組入前当年度収支差額 (A+B-C)	△ 123,405	△ 124,083	678	121,337	△ 245,420		
基本金組入額合計	△ 87,000	△ 86,136	△ 864	△ 217,167			
当年度収支差額	△ 210,405	△ 210,218	△ 187	△ 95,829			
前年度繰越収支差額	△ 6,795,622	△ 6,891,451	95,829	△ 6,795,622			
基本金取崩額	0	0	0	0			
翌年度繰越収支差額	△ 7,006,027	△ 7,101,670	95,643	△ 6,891,452			

(参考)						
事業活動収入計	1,845,393	1,895,024	△ 49,631	2,083,470	△ 188,445	
事業活動支出計	1,968,798	2,019,107	△ 50,309	1,962,132	56,975	

経常収入計	1,844,505	1,889,341	△ 44,836	2,044,274	△ 154,934
経常支出計	1,924,828	1,972,158	△ 47,330	1,957,935	14,223

区 分	2023年度	2023年度	2020年度	2022年度	
	予算	決算	全国平均	決算	
			(医療業を除く)		
人件費比率	— 人件費 — 経常収入	58.5%	59.3%	51.8%	53.0%
教育研究費比率	— 教育研究経費 — 経常収入	34.3%	33.5%	35.2%	31.5%
管理経費比率	— 管理経費 — 経常収入	11.0%	11.1%	8.2%	10.6%
経常収支差額比率	— 経常収入計—経常支出計 — 経常収入	△4.4%	△4.4%	4.6%	4.2%
事業活動収支差額比率	— 基本金組入前当年度収支差額 — 事業活動収入	△6.7%	-6.5%	5.2%	5.8%

資金収支計算書（表2） 2023年4月1日から2024年3月31日まで (単位：千円)

収入の部				支出の部			
科目	予算 ①	決算 ②	差異 ①-②	科目	予算 ①	決算 ②	差異 ①-②
学生生徒等納付金収入	1,161,776	1,161,693	83	人件費支出	1,078,490	1,119,448	△ 40,958
手数料収入	10,530	12,067	△ 1,537	教育研究経費支出	427,506	433,449	△ 5,943
寄付金収入	18,150	18,190	△ 40	管理経費支出	181,500	187,677	△ 6,177
補助金収入	574,800	595,683	△ 20,883	借入金等利息支出	12,112	11,913	199
資産売却収入	100	100	0	借入金等返済支出	407,396	578,730	△ 171,334
付随事業・収益事業収入	21,900	22,424	△ 524	施設関係支出	168,647	207,302	△ 38,655
受取利息・配当金収入	62	73	△ 11	設備関係支出	55,719	65,951	△ 10,232
雑収入	53,916	75,041	△ 21,125	資産運用支出	0	0	0
借入金等収入	168,000	178,200	△ 10,200	その他の支出	118,310	115,463	2,847
前受金収入	163,000	175,344	△ 12,344	資金支出調整勘定	△ 27,271	△ 149,244	121,973
その他の収入	76,732	110,033	△ 33,301	翌年度繰越支払資金	559,557	484,499	75,058
資金収入調整勘定	△ 150,000	△ 176,706	26,706				
前年度繰越支払資金	883,000	883,047	△ 47				
収入の部合計	2,981,966	3,055,188	△ 73,222	支出の部合計	2,981,966	3,055,188	△ 73,222

(3) 「貸借対照表」(表3)

ア. 資産の部

前年度比△467百万円減少し、8,462百万円となりました。借入金および学校債の返済を401百万円行い、現預金が△399百万円減少したのが影響しています。

イ. 負債の部

借入金△265百万円、学校債△136百万円等の減少により、前年度比△401百万円減少し、2,003百万円となりました。

ウ. 純資産の部(基本金+繰越収支差額)

前年度末に比べ、△124百万円減少し6,458百万円となりました。

2023年度 貸借対照表(表3)

2024年3月31日

(単位：千円)

資産の部				負債及び純資産の部			
科目	本年度末	前年度末	増減	科目	本年度末	前年度末	増減
資産	8,462,046	8,928,579	△ 466,532	負債	2,003,775	2,346,224	△ 342,449
固定資産	7,932,702	7,958,931	△ 26,229	固定負債	1,531,068	1,677,081	△ 146,013
有形固定資産	7,789,008	7,769,970	19,038	長期借入金	810,000	1,053,996	△ 243,996
土地	3,367,961	3,373,568	△ 5,607	学校債	528,500	422,200	106,300
建物	3,440,046	3,450,647	△ 10,601	退職給与引当金	192,568	200,885	△ 8,317
その他の有形固定資産	981,001	945,755	35,246	流動負債	472,706	669,143	△ 196,437
特定資産	120,000	120,000	0	短期借入金	60,000	81,334	△ 21,334
その他の固定資産	23,694	68,961	△ 45,267	1年以内償還予定学校債	41,900	283,400	△ 241,500
流動資産	529,344	969,648	△ 440,304	前受金	175,344	140,260	35,084
現金預金	484,499	883,047	△ 398,548	その他の流動負債	195,462	164,149	31,313
未収入金	36,446	75,732	△ 39,286	純資産	6,458,272	6,582,355	△ 124,083
その他の流動資産	8,399	10,868	△ 2,469	基本金	13,559,942	13,473,806	86,136
				第1号基本金	13,420,942	13,340,806	80,136
				第4号基本金	139,000	133,000	6,000
				繰越収支差額	△ 7,101,670	△ 6,891,451	△ 210,218
合計	8,462,046	8,928,579	△ 466,532	合計	8,462,046	8,928,579	△ 466,532

(4) 「財産目録」(表4)

2023年度の「正味財産」(「資産総額」－「負債総額」)は、6,458百万円となり、前年度末の正味財産6,582百万円に対し、△124百万円減少しました。また、有利子負債(「借入金」＋「学校債」)は、前年度末1,841百万円に対し、本年度は1,440百万円となり、△401百万円を圧縮することができました。

財産目録 (表4)

科 目		2024年3月31日	
I. 資 産 額			
1. 基本財産			
	土地	127,396.32㎡	3,367,961千円
	建物	44,501.69㎡	3,440,046千円
	その他の基本財産		981,001千円
基本財産 計			7,789,008千円
2. 運用財産			
	現金及び預金		484,499千円
	引当特定預金		120,000千円
	未収入金		36,446千円
	その他の運用財産		32,093千円
運用財産 計			673,038千円
資産総額			8,462,046千円
II. 負 債 額			
1. 固定負債			
	長期借入金		810,000千円
	学校債		528,500千円
	退職給与引当金		192,568千円
固定負債 計			1,531,068千円
2. 流動負債			
	短期借入金		60,000千円
	1年以内償還予定学校債		41,900千円
	前受金		175,344千円
	その他の流動負債		195,462千円
流動負債 計			472,706千円
負債総額			2,003,775千円
III. 正味財産 (資産総額－負債総額)			6,458,272千円

(5) 監事の監査報告書



2. 財務状況の推移

(1) 経常収支差額の推移

経常収支差額は、前年度比△169百万円減少し、△83百万円の赤字となりました。学生生徒等納付金と経常費等補助金の減少等により経常収入が△155百万円減少し、経常支出が人件費の増加により、14百万円増加し多額の赤字となりました。

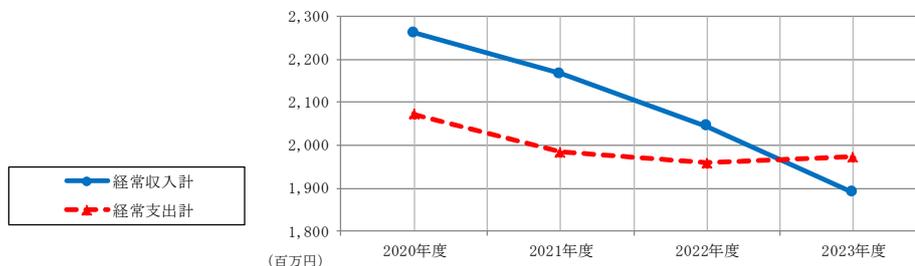
(単位：百万円)

科 目		2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	前年比
教育活動収入	学 納 金	1,493	1,453	1,295	1,162	△ 133
	寄 付 金	14	13	10	12	2
	補 助 金	632	609	603	596	△ 7
	そ の 他	122	91	136	119	△ 17
	計	2,261	2,166	2,044	1,889	△ 155
教育活動支出	人 件 費	1,173	1,105	1,083	1,119	36
	教 育 研 究 費	682	651	644	632	△ 12
	管 理 経 費	195	210	216	209	△ 7
	そ の 他	1	0	0	0	0
	計 (内、減価償却額)	2,051 (202)	1,966 (213)	1,943 (215)	1,960 (219)	17 (4)
教育活動収支差額		210	200	101	△ 71	△ 172
教育活動外収支	教育活動外収入	0	0	0	0	0
	教育活動外支出	21	17	15	12	△ 3
	教育活動外収支差額	△ 21	△ 17	△ 15	△ 12	3
経常収支差額		189	183	86	△ 83	△ 169

(参考)

経常収入計	2,261	2,166	2,044	1,889	△ 155
経常支出計	2,072	1,984	1,958	1,972	14

経常収支の推移



(2) 主要財務比率の推移

(評価 = △ : 高い方がよい ▼ : 低い方がよい)

学生生徒の減少により人件費依存比率、人件費比率が高くなってきております。また経常支出を経常収入で賄う事ができず、経常収支差額比率はマイナスとなりました。流動比率の悪化は、返済を進めるために約定外で借入金返済を184百万円行った事により、流動資産が減少したことが要因です。

比 率	算 式 (×100)	評価	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度	令和2年度 全国平均 (医歯薬を除く)
人件費依存比率	$\frac{\text{人 件 費}}{\text{学生生徒等納付金}}$	▼	78.6%	76.0%	83.6%	96.4%	69.6%
人 件 費 比 率	$\frac{\text{人 件 費}}{\text{経 常 収 入}}$	▼	51.9%	51.0%	53.0%	59.3%	51.8%
教育研究費比率	$\frac{\text{教育研究経費}}{\text{経 常 収 入}}$	△	30.1%	30.1%	31.5%	33.5%	35.2%
管 理 経 費 比 率	$\frac{\text{管理経費}}{\text{経 常 収 入}}$	▼	8.8%	9.7%	10.6%	11.1%	8.2%
経常収支差額比率	$\frac{\text{経常収入計}-\text{経常支出計}}{\text{経 常 収 入}}$	△	8.3%	8.5%	4.2%	-4.4%	4.6%
流 動 比 率	$\frac{\text{流 動 資 産}}{\text{流 動 負 債}}$	△	213.9%	214.3%	144.9%	112.0%	256.6%

4. 学校法人会計の概要と用語説明

国または地方公共団体から経常費補助金の交付を受ける学校法人は、「私立学校振興助成法」の定めにより「学校法人会計基準」に従って計算書類を作成し、公認会計士または監査法人による監査を受けて所轄庁に届け出ることが義務づけられています。

「学校法人会計基準」に定められている計算書類は、「資金収支計算書」、「事業活動収支計算書」、「貸借対照表」の3表です。また、「私立学校法」により、これらの他に「財産目録」、「事業報告書」を作成することと、中期経営計画の作成（2019年度より）が求められています。

（1）資金収支計算書…企業会計の「キャッシュフロー計算書」に類似します。

- ア. 「資金収支計算書」は、学校法人の当該年度（4月1日～翌年3月31日）の全ての収入と支出の内容ならびに支払資金（現金預金）の収入・支出の顛末を明らかにするものです。
- イ. 内訳として「資金収支内訳表」（学校法人、大学各学部別および大学計、高校、中学、こども園、総額の組織別資金収支を記載）、「人件費支出内訳表」（人件費について組織別に記載）の他、「活動区分資金収支計算書」を作成しています。
- ウ. 「活動区分資金収支計算書」では、「教育活動」、「施設整備等活動」、「その他の活動」（借入金の収支等、主に財務活動）ごとに資金の流れを把握することができます。

（2）事業活動収支計算書…企業会計の「損益計算書」に類似します。

- ア. 「事業活動収支計算書」は、当該年度の収入と支出について、本業での収支を「教育活動収支」、その結果を「教育活動収支差額」、財務活動での収支を「教育活動外収支」、その結果を「教育活動外収支差額」、この2つの合計を「経常収支差額」として記載します。
- イ. この後に資産売却等の臨時的な収支を「特別収支」・その結果を「特別収支差額」、以上全ての収入と支出の差額を「基本金組入前当年度収支差額」として記載します。さらに、「基本金組入額合計」、「当年度収支差額」、「前年度繰越収支差額」、「翌年度繰越収支差額」と長期の収支バランスを示す項目が続きます。
- ウ. 脚注には、「事業活動収入計」（教育活動収入+教育活動外収入+特別収入）、「事業活動支出計」（教育活動支出+教育活動外支出+特別支出）を記載します。

（3）貸借対照表…年度末における財政状態を表したものです。

- ア. 学校法人の資産に対する負債（他人資本）と純資産（基本金+繰越収支差額（翌年度繰越収支差額））（自己資本）の額を明らかにします。
- イ. 基本金は、学校法人がその諸活動に必要な資産を継続的に保持するために維持すべきものとして、その事業収入の内から組入れた金額です。

第1号基本金	取得した固定資産の価額
第2号基本金	将来取得する固定資産に充てるために、事前に計画的、段階的に積み立てる金銭その他の資産の価額
第3号基本金	奨学基金等として継続的に保持し、かつ運用する金銭その他資産の価額
第4号基本金	恒常的に保有すべき資金

（4）財産目録…貸借対照表の資産や負債の具体的内容を表したものです。

学校法人が所有する土地や建物の面積、図書の数などを知ることができます。また、財産目録は、「基本財産」（私立学校に必要な施設および設備またはこれらに要する資金）と「運用財産」（私立学校の経営に必要な財産）に区分して記載することになっています。

Ⅵ 第3次中期経営計画（2020年度～2024年度）と実績

1. 2023年度実績と中期経営計画および前年度との比較

(単位：百万円)

	2023年度 中計 ①	2023年度 実績 ②	中計比 ②－①	2022年度 実績 ③	前年度比 ②－③
学生生徒等納付金	1,428	1,162	△266	1,295	△133
経常費等補助金	490	596	106	603	△7
その他収入	112	131	19	146	△15
教育活動収入計	2,030	1,889	△141	2,044	△155
人件費	1,034	1,119	85	1,083	36
教育研究費	733	632	△101	644	△12
管理経費等	224	209	△15	216	△7
教育活動支出計	1,992	1,960	△32	1,943	17
教育活動収支差額	38	△71	△109	101	△172
教育活動外収入計	0	0	0	0	0
教育活動外支出計	15	12	△3	15	△3
教育活動外収支差額	△15	△12	3	△15	3
経常収支差額	23	△83	△106	86	△169
在学学生生徒総数	1,490	1,285	△205	1,404	△119
有利子負債期末残	1,582	1,440	△142	1,841	△401

<学生生徒総数>

(単位：人)

	2023年度 中計④	2023年度 実績⑤	中計比 ⑤－④	2022年度 実績⑥	前年度比 ⑤－⑥
国際観光学部	425	321	△104	397	△76
子ども教育学部	300	230	△70	230	0
大学計	725	551	△174	627	△76
短期大学部 保育科	—	—	—	—	—
高等学校	480	414	△66	454	△40
中学校	150	187	37	190	△3
中高計	630	601	△29	644	△43
附属こども園	135	133	△2	133	0
学生生徒総数	1,490	1,285	△205	1,404	△119

(1) 学生・生徒数

学生生徒総数は、1,285名で中期経営計画比△205名、前年度比△119名と厳しい結果とな

りました。

(2) 事業活動収支計算書の経常収支差額

修学支援新制度による「授業料等減免費交付金」が補助金として 56 百万円上積みされた他、こども園の補助金も増加した結果、経常費等補助金は計画を 106 百万円上回りましたが、学生生徒数が中期経営計画数字を割り込んだため、学生生徒納付金は、計画比△266 百万円の未達となりました。

経常支出は、給与水準の引上げ基調により人件費が計画比 85 百万円増加しましたが教育研究費△101 百万円の減少と相殺され、全体で計画比△35 百万円の減少となりました。

しかしながら、想定以上の学生生徒数の減少により、計画期間中初の△83 百万円の赤字となりました。

2. 課題に対する成果

(1) 子ども教育学部の学生確保は厳しい状況続く。国際観光学部は回復。

子ども教育学部の入学生は 2023 年度 55 名（平安女学院高校からの進学者 29 名：受験生 26 名）、2024 年度 35 名（平安女学院高校からの進学者 9 名：受験生 26 名）となりさらに厳しい状況が続いています。また、国際観光学部の入学生は 2023 年度 40 名、2024 年度 78 名と 38 名増加しましたが、これは中国人留学生 34 名の入学が牽引したものです。

(2) 耐震工事で増加した有利子負債の圧縮

(単位：百万円)

	2020 年度	2021 年度	2022 年度	2023 年度
金融機関	1,460	1,257	1,135	870
学校債	834	828	706	570
計	2,294	2,085	1,841	1,440
前年度比	△264	△209	△244	△401

金融機関借入の繰上げ返済 184 百万円を行い、学校債の償還、約定返済を含めて前年度比△401 百万円の減少となり、計画を上回る有利子負債の圧縮となっています。

3. 新たな課題と対応

(1) 学生生徒数を増加させる事が本学において大きな課題であります。

本学では、2023 年度に引き続き次の対応をいたします。

(ア) 国際観光学部では、留学生の受入れおよび通信教育学校の開拓による学生数の増加を図る。

(イ) 子ども教育学部では、高等学校の幼児教育進学コースとの連携強化並びに、教職員・在学学生一体となった本学の魅力発信の強化を図る。

(2) 高等教育の修学支援新制度において、「財務に関する要件」「収容定員に関する要件」を充足する必要があります。

本学では、これに対し 2023 年度に引き続き次の対応をいたします。

(ア) 長期の展望に立って、財務体質の強化を図ります。

(イ) 収容定員に関する要件については、学生の募集力強化に加え、就職率 90%以上を引続き確保します。

以上

2023年度事業報告書

発行日 : 2024年5月29日

発行 : 学校法人 平安女学院
京都市上京区室町通榎木町上る武衛陣町 221
電話 075 (414) 8155
<http://www.heian.ac.jp>

編集 : 学校法人平安女学院 法人事務局

